

memo

消費者教育 実践事例集

第142回

人形劇を通し、 「幼児期に身に付けたいこと」を学ぶ取組

文京区消費生活センター

人形劇実施の経緯

文京区消費生活センター（以下、当センター）では、幼児期からの消費者教育の推進を目的として、幼児向け人形劇「かさじぞう」の上演及び「こぎつねコンとこだぬきポン」の動画配信を実施しました。

消費者教育というと、契約やお金など難しい内容を思い浮かべる方も多いかもかもしれません。しかし、幼児期に大切なのは、知識を覚えることよりも、感じ方や考え方の基礎を育むことだと考えます。消費者庁の「消費者教育の体系イメージマップ」では、幼児期に身に付けたいこととして「思いやり」「ルールを守る」「相談する力」といった力を示しています。今回の取組は、子どもたちがその入口に楽しく触れられるよう、身近な方法で学びの場を用意することとしました。

幼児期は、言葉だけで説明するよりも、見たり聞いたりする体験活動を行うことが、学びのきっかけになりやすいといえます。そこで当センターでは、子どもたちが親しみやすい「人形劇」の上演と動画配信を行うこととしています。

人形劇はその場で一緒に楽しめる臨場感があり、子どもたちの集中や共感を引き出しやすいのが特徴です。動画は、時間や場所にとらわれず、繰り返し見ることができると、親子の会話にもつながりやすい利点があります。

本取組のねらいは主に3つです。

- 幼児期に身に付けたい「思いやり」「ルールを守る」「相談する力」などを無理なく自然に育む

- 子どもたちが楽しんで学びに触れることができる
- 保護者の方に消費者教育のヒントを届ける

幼児期に育まれた「相手の立場を想像する力」や「困ったときに助けを求める姿勢」は、成長してからの買い物や契約の場面でも、トラブルを防ぐ力になると期待できます。

人形劇のテーマと内容

上演した「かさじぞう」は、寒い雪の日に困っているお地蔵さまを見て、おじいさん・おばあさんが自分の傘をそっと分けてあげる物語です。この場面を通して、相手の気持ちに気づくこと、困っている人を思いやること、自分にできることを考えることが自然と伝わります。幼児期の学びは、正解を押し付けるよりも、物語の中で心が動く経験を重ねることが大切です。言葉で「優しくしよう」と教えるのではなく、登場人物の行動や気持ちの変化を一緒に見守ることで、子どもたちの中に「こうしたらいいかもしれない」という気づきが芽生えます。

当日は多くの子どもたちが人形劇に集中して参加し、登場人物の気持ちや行動の意味を、それぞれの発達段階に応じて受け止めているようすがうかがえました。昔話の世界観に触れながら、「自分のものを分けてあげる」「困っている人に気づく」といった行動のイメージが持てたことは、幼児期の消費者教育として意義があると考えています。

動画配信では、幼児が親しみやすいキャラクターを用いて、家庭でも取り入れやすい内容を意識しました。幼児期の消費者教育は「買い物の知識」を教えることが中心ではありません。順番を守る、約束を守る、物を大切に使う、嫌なときは嫌と言う、困ったときは大人に相談する。こうした日々の積み重ねが、「自分で考えて判断する力」につながっていきます。動画は短時間で視聴でき、親子で一緒に見ながら「今の場面、どう思った?」「もし同じことがあったらどうする?」など会話を広げることができます。見た後にすぐ生活場面に結び付けられるよう、内容は身近な行動や気持ちに焦点を当て、理解しやすい物語を選択しました。

実施を通じて得られた成果

実施を通じて得られた成果として、人形劇と動画という2つの形で取り組んだことで、幼児が楽しさの中で自然に生活の学びに触れられる場をつくることができました。人形劇では、その場ならではの集中と共感が生まれ、物語を通して思いやりを感じ取る姿が見られました。動画では、家庭で視聴できることで、日常の声掛けや親子の会話につながるきっかけをつくれた点が成果です。加えて、人形劇のような対面の取組と、家庭でも触れられるコンテンツを組み合わせることで、参加の形の選択肢が広がったことも意義がありました。

また、本取組は昔話やキャラクターといった身近な題材を活用できる一方で、実施に当たっては準備や当日の運営など、一定の時間と調整が必要でした。そのため、内容や媒体は地域の実情に合わせて工夫しながら進めることが重要です。大がかりな教材を新たに開発しなくても取り組める部分はありますが、関係者との調整や当日の体制づくりを含め、計画的に実施することが継続のポイントになります。

今後の展望

今後も当センターでは、幼児期の発達段階に合わせた消費者教育を、楽しさと分かりやすさを大切にしながら進めていきたいと考えています。

例えば、幼児が参加しやすい体験型の取組を軸に、内容と運営の改善を進めます。具体的には、物語の展開の中で「気づき」が生まれやすい場面づくりを意識し、日常生活に結び付きやすいテーマを取り入れます。また、見えやすさ・聞きやすさに配慮した会場環境の整備や、周知方法の工夫により、参加のしやすさを高めていく方針です。さらに、家庭での振り返りにつながる声掛けのヒントを提示するなど、学びが日常の中で活かされる工夫を行います。

幼児期に身に付ける「思いやり」「ルールを守る」「相談する力」は、将来、社会の中で自分らしく暮らすための大切な土台です。子どもたちが安心して成長できるよう、これからも身近で温かい学びの場をつくっていきます。

写真 人形劇「かさじぞう」上演の様子

